

渡良瀬遊水地のコウノトリについて

1. 概 要

渡良瀬遊水地第1調節池内のコウノトリの人工巣塔においては、2月中旬から2羽のコウノトリが姿を見させているが、同じ親から生まれた兄妹のペアであり、近親交配による繁殖は、遺伝的劣化の回避及び野外個体群の遺伝的多様性の観点から好ましくないとの専門家の指摘を受けた。

このたび、専門家の指導の下、擬卵と交換したことを報告する。

2. 繁殖個体

オス りょう J0341 2021.3.29 小山市巣塔で生まれる(4歳)

メス 小白(こはく) J0528 2023.4.6 小山市巣塔で生まれる(2歳)

ともに小山市巣塔で繁殖を続ける ひかる(オス)とレイ(メス)の子

3. 経 過

2月4日(火)	「りょう」(雄:4歳)が昨年も営巣した第1調節池内人口巣塔に飛来。以後巣塔にいる時間が増える。
2月15日(土)午前	「小白」(雌:2歳)が第1調節池内人口巣塔に飛来。「りょう」が巣材を運び入れる様子や交尾のような行為が見られる。
2月17日(月)	兵庫県立コウノトリの郷公園松本獣医師より「 <u>郷公園では放鳥する際遺伝的に遠い個体にするよう管理しているが野生となると管理が難しい。遺伝子の多様性のためにも、近親婚は好ましくない</u> 」と指摘される。 栃木市の現在の状況を報告し、今後の準備等について指示を仰ぐ。
3月12日(水)	産卵推定
4月7日(月)	兵庫県立コウノトリの郷公園の主任飼育員により、擬卵と交換卵回収数 4個

4. 本市の対応について

兵庫県立コウノトリの郷公園と連携・協議の結果、主任飼育員により卵を偽のもの(擬卵という)に置き換え、兵庫県立コウノトリの郷公園が持ち帰る。

- ・近親ペアで生まれた卵は遺伝的多様性の確保が難しくなるため。
- ・擬卵を抱かせるのは、卵がなくなると親鳥はつぎの卵を生んでしまうため。

5. 近親交配の際の他市の対応例

- 1 姉弟ペアの卵4個を回収し有精卵2個(親鳥は兵庫県立コウノトリの郷公園飼育ペア)及び擬卵2個の計4個を托卵し、ふ化が確認された。回収した卵は兵庫県立コウノトリの郷公園で飼育された。(京丹後市:2019年)
- 2 電柱に営巣した姉弟ペアの卵3個を回収、福知山動物園の孵卵器で飼育(遺伝的な研究のため)。電柱の巣は撤去。(京都舞鶴市:2022年)
- 3 親子ペアの内、雄を隔離。卵は兵庫県立コウノトリの郷公園で、親子婚による影響を研究するためふ化・飼育等管理。残された雌が他の雄とペアになったら隔離した雄を放鳥する。(豊岡市(コウノトリの郷公園):2022年)

6. IPPM-OWS(コウノトリの個体群管理に関する機関・施設間パネル)による コウノトリ保全方針(抜粋)

本方針の目標

国内でコウノトリの保全に取り組む事業者による一体的な協力体制のもと、国内に複数の繁殖集団(メタ個体群)が形成されて安定的に維持され、人とコウノトリが共生できる環境づくりに係る活動が全国で行われることを長期的な目標ととらえたうえで、以下を本方針における中期的な目標とする。

①遺伝的多様性の維持に配慮しながら、一定規模の国内の飼育個体群が安定的に維持されること。

②標識(足環装着)とモニタリングにより野外個体群の遺伝的多様性の状況が把握され、放鳥や管理捕獲等の方法を取りながら持続可能な規模の野外個体群が維持されること。

③国内各地において飼育個体群及び野外個体群を管理するための連携が構築されること。

●野外個体群の遺伝的多様性の確保

①放鳥計画の立案

②管理捕獲

野外個体群について、遺伝的多様性を確保するための管理捕獲の必要性について検討する。近親婚ペアによる造巣については、地域の実情等に合わせて、繁殖の抑制等について造巣地の地方公共団体等と対応を協議する。

問合せ：地域振興部 渡良瀬遊水地課
担当：ラムサール推進係 中田、舘野
電話： 0282-62-0919